

第213回 創薬科学セミナー

日時：2026年5月12日(火曜日) 14:30～15:30
創薬科学研究館2階講義室205



先端薬科学特論：単位認定講義

講演タイトル：

『高反応性化学種を活用して
タンパク質の状態を識る』

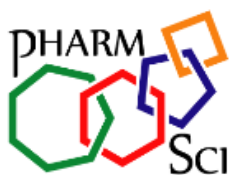
講師：佐藤 伸一 博士

東北大学 学際科学フロンティア研究所
准教授



佐藤先生は、高反応性化学種を活用した共有結合標識により、タンパク質の「量」ではなく「状態」を直接読み出す新規ケミカルプロテオミクス手法を開発されています。具体的には、チロシン残基を標的とするmsecスケールのラジカル反応により、リガンド結合、構造変化、相互作用界面の動的変化を高い時間・空間分解能で可視化する技術を開発されています。また、nm～ μm スケールで反応範囲を制御可能な近接標識技術と統合することで、タンパク質間および細胞間相互作用の階層的解析を可能にするツール群も開発されています。本セミナーではこれらの開発技術についてご紹介頂きます。皆様、奮ってご参加下さい。

第213回 創薬科学セミナー



日時：2026年5月12日(火曜日) 15:30～16:30
創薬科学研究館2階講義室205

先端薬科学特論：単位認定講義

“Chemical Probes in Antifungal Research: Decoding Mechanisms, Resistance, and Drug Discovery Concepts”

Dr. Micha Fridman

School of Chemistry, Faculty of Exact
Sciences, Tel Aviv University, Professor



抗菌剤の不足と薬剤耐性菌の出現が世界中で大問題となっていますが、Fridman先生は、抗菌剤の機能発現機構や薬剤耐性機序の解明のため、蛍光プローブの設計・合成と生細胞イメージング法を開発しています。既に抗菌剤の細胞内局在の違いが薬効発現や薬剤耐性に与える影響について興味深い知見を得ており、これらの知見は今後の抗菌剤開発に有用なものです。本セミナーではこれらの最新の成果についてご紹介いただきますので、ぜひ奮ってご参加ください。

The global shortage of antimicrobial agents and the rapid emergence of drug-resistant bacteria have become serious worldwide challenges. To address these issues, Prof. Fridman has developed fluorescent chemical probes and live-cell imaging methodologies to elucidate the mechanisms of action of antimicrobial agents as well as the molecular bases of drug resistance. In this seminar, Prof. Fridman will present his latest research results. We warmly invite you to participate in his lecture.